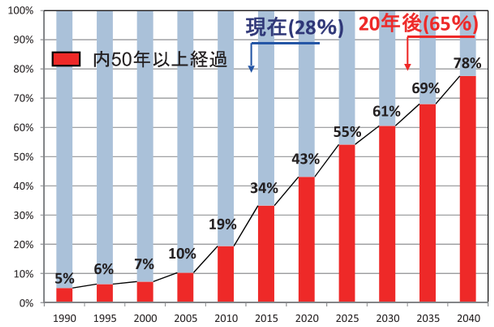
道路

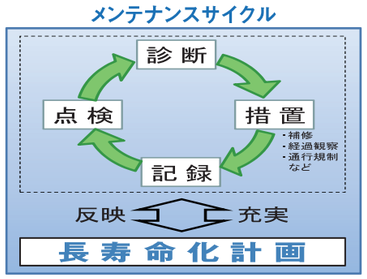
防災・減災対策

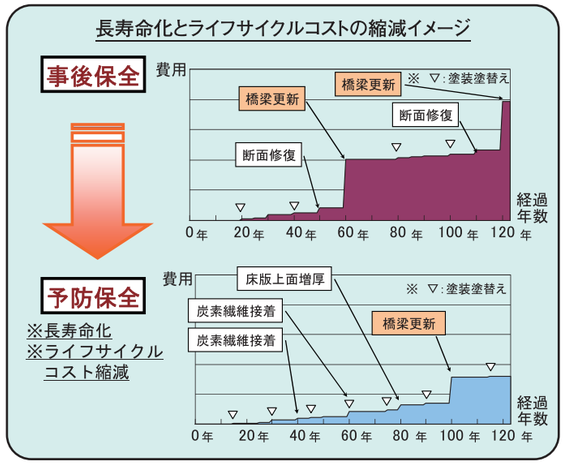
道路の老朽化対策

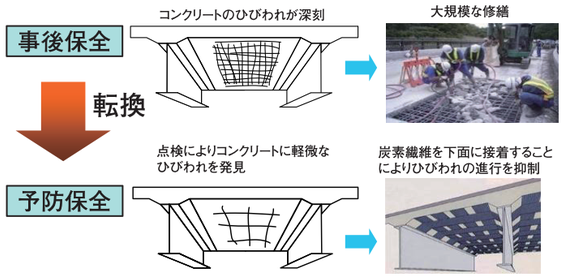
高度成長期以降に整備した道路の急速な老朽化に対応するため、各々の施設の特徴を踏まえた適切な点検による現状確認と、その結果に基づく的確な修繕の実施が不可欠です。例えば、橋梁においては、建設後50年を超える橋梁数の全管理橋梁数に占める割合が、現在の28%から20年後には約65%に急激に増加します。これら橋梁の長寿命化を図るため、道路点検（橋梁、トンネル等の点検）を実施して健全性を着実に把握し、診断、措置等を戦略的なメンテナンスサイクルで実施していきます。このサイクル結果を記録し長寿命化計画に反映させることで計画的に修繕を実施でき、また、大規模な修繕に至る前に予防的な修繕を行う事で、老朽化対策を推進します。他にも市町村道路等を管理する地方自治体に対して、研修や講習会及び市町村管理橋梁の点検・診断に係る様々な技術支援の取組を実施しています。

■架設から50年経過した橋梁割合の推移







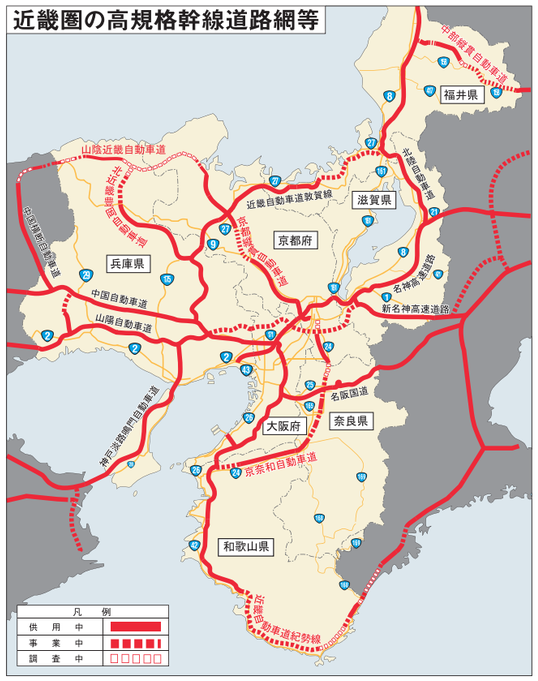


自治体への支援　橋梁保全技術講習会の開催状況

研修会における橋梁の現場見学状況

広域道路ネットワークの整備推進

災害に強い広域ネットワークを構築するため、今後想定される地震、津波発生時や豪雨災害によって、現道が寸断することにより広域交通に影響を及ぼすおそれがある区間について、代替性の確保のための主要都市間等を連絡する高規格幹線道路等の整備を推進します。



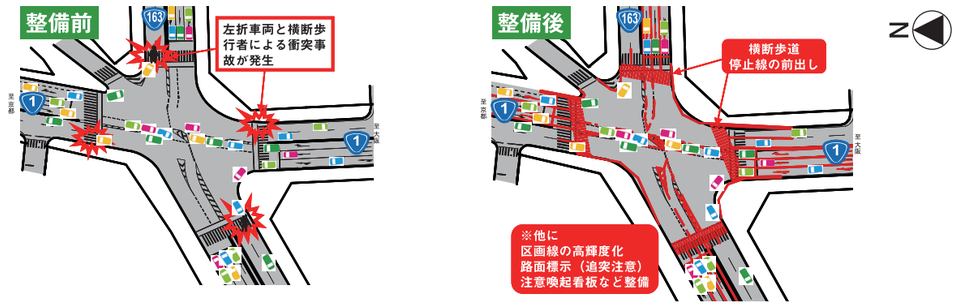
暮らしの安全・安心の確保

事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）の推進

より効率的・効果的な交通事故対策事業を推進するため、「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）」の取り組みを進めています。

「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦」は、事故が多発する幹線道路を対象に、過去の事故データや地域の声に基づいた事故の危険性の高い区間を選定し、警察等と連携した重点的な対策を推進します。

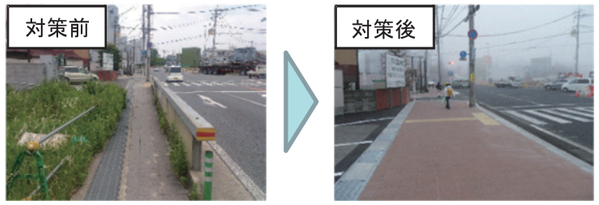
交差点の改良事例（国道1号関目5丁目交差点改良事業）



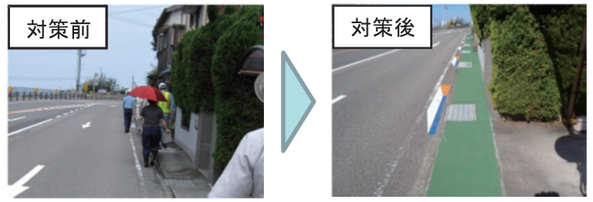
通学路等における安全で安心な歩行空間の創出

文部科学省及び警察庁と連携して実施した通学路における緊急合同点検の結果等を踏まえ、歩道整備や防護柵設置等の対策を行うことにより、安全で安心な歩行空間を確保する取組を推進します。

対策実施例（歩道の拡幅）



対策実施例（カラー舗装化、立体減速表示の設置）



経済・地域の活性化

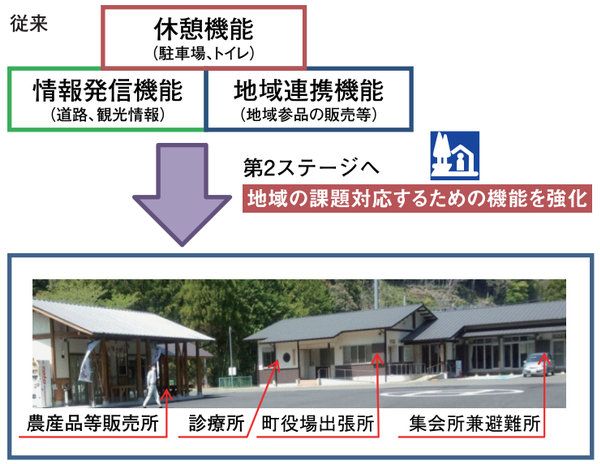
近畿圏環状道路の整備推進

直下型地震等における避難、救援、物資輸送ルートの確保や迅速かつ円滑な物流の実現、国際競争力の強化、交通渋滞の緩和等を図るため、環状道路の整備を推進します。

道の駅の多様な機能の強化（第2ステージ）

「道の駅」は、制度発足から 20年、全国の登録数は1030駅（近畿124駅）となり、従来は、道路利用者の休憩、情報提供、地域連携の場として活用してきましたが、これからは地域の課題対応するための拠点、目的地となるようにも支援していきます。

「道の駅」の機能の強化



暮らしに必要な機能を設置（事例）【滝ノ拝太郎】